10）長岡中央綜合病院産婦人科における遺伝相談について ― 開設より5年間を経過して ―

幡谷　功・西村　紀夫
加藤　政美　（長岡中央綜合病院）

長岡中央綜合病院にて中越地区の遺伝相談を開設し約5年が経過したのでこの間の経過をまとめ報告する．対象は平成8年5月より平成12年2月の期間に当院において遺伝相談を行った342件（366項目）．長岡近郊在住の症例が主であり，約半数の169件が他院よりの紹介症例である．遺伝相談件数の月別推移では，月平均5～6件の相談を施行している．相談内容の内訳は339件92.6％が妊娠時の相談であり，このうち，薬物投与に関係した相談が153件と最も多く，次いで，高齢妊娠あるいは前先回染色体異常児などで今回妊娠時に羊水による染色体分析を目的に受診した方が93件，以降，放射線被曝23件，胎児頚部浮腫あるいは胎児 cystic hygroma の症例が41件，その他妊娠群が11件であった．非妊娠時の相談は27件の7.4％であった．遺伝相談の需要に，今後も当院産婦人科では対応していきたいと考えている．

11）体外胚移植にて生児を得たターナー症候群の一例

松下　充・島田　能史
安田　雅子・安達　茂実（長岡赤十字病院 産婦人科）
児玉　省二・須藤　寛人

【はじめに】今回，自国で許可されていない生殖医療技術を海外で利用して妊娠を希望し，生児を得たターナー症候群の一例を経験したので報告する．【症例】27歳，0妊0産，身長148 cm，非妊時体重 48 kg【既往歴】15歳に Turner 症候群（45XO/46XXp-）と診断され，以後，Kauffmann 療法にて月経発来していた．

【現病歴】症例は挙児希望し，インターネットで検索・登録・面談をした（http://www.donorivf.com/japanese/）後，H12年2月9日当院受診．LMP を H12年4月23日として，渡米した後，5月5日 ET を受けた．5月23日に当院再受診．その後とくに問題なく経過し，H13年1月10日（37w 3 d）骨盤位により予定帝王切開術にて Apgar 8/9，2896 g，♂児を娩出した．子宮奇形は認められず，両側卵管の発育が認められたが，両側卵巣は認められなかった．

【考察】（1）今回の症例は，インターネットで検索・登録・面談をして，アメリカで胚移植を受けた．（2）卵子提供者は日系人の経産婦で，日本人に今回で3回目の卵子提供であった．（3）11個の受精卵から，1回の ET にて受精卵2個を胚移植し妊娠成立した．（4）残りの受精卵は3年間凍結保存されており，次回妊娠を希望した場合には利用可能である．

12）胎児頻脈を来した2症例の臨床的検討

大木　泉・倉林　工
石井　桂介・鈴木　美奈（新潟大学 産婦人科学教室）
高桑　好一・田中　憲一

胎児頻脈は心不全状態から，胎児水腫，子宮内胎児死亡を引き起こす原因となるだけでなく，出生後心不全となる危険性が高いため，周産期管理上，問題となる病態の1つである．今回，胎児頻脈を来し胎内治療を試みた2症例を経験したので報告する．症例1：31歳，0妊0産．自然妊娠成立後，妊娠34週1日，胎児心拍220の胎児頻脈指摘され，母体搬送．入院後，超音波所見から心房粗動疑い，母体ジギタリゼーション開始．34週2日，胎児心拍は正常洞調律．以後，胎児に頻脈，心不全兆候出現なく，39週5日，経膣分娩にて男児2454 g（－1.57 SD），Apgar 6/9点にて出生．6生日に退院．症例2：25歳，0妊0産．自然妊娠成立後，妊娠36週3日，妊婦検診にて，胎児頻脈指摘され，翌日，紹介入院．入院時，胎児は軽度心不全を認め，母体ジギタリゼーション開始．胎児頻脈の改善得られず，心拡大が増強し，37週1日，帝王切開術にて女児2810 g（＋0.36 SD），Apgar 9/9点出生．経食道的心臓ペーシングにて心拍は150となり，10生日に小児科に転棟．胎児頻脈の妊娠管理は肺成熟度と心不全の有無により決定され，胎内治療ではジギタリスが第一選択となり，胎児心奇形を伴わない症例には，母体ジギタリゼーションが有効であることがある．

Ⅱ．特　別　講　演

「新しい早産管理」

浜松医科大学産婦人科学教室　教授
金　山　尚　裕　先生